

留学だより Vol. 6

こんにちは。近頃、ホストファミリーが作るご飯がおいしすぎて真剣に困っている森田です。みなさん、ご進級ご入学、おめでとうございます。

日本の桜や爽やかな天気など新学期特有の新鮮な雰囲気が頭をよぎります。ご存じの方も多いと思いますが、北米を含む大半の国では学校は9月ごろに始まるのが一般的です。確かに、2か月間の夏休みを境に新年度を始める方が、切りが良い気がするので、日本の4月始まりは変だよ、とスイスの留学生と話していたところ、彼女は「そうでもない、春は多くの生物や植物が生まれる時期だから新たな気持ちで学校生活をスタートできそう」と言いました。あの時期のフレッシュな気持ちはそういうことだったのか、人間といえども自然の営みから大きくそれることはない、それを理解しているかのような日本文化の良さを恥ずかしながら彼女に気づかされました。素敵な感性を持っているなど羨ましくさえ思いました。

自然といえば、最近では *mother of nature* をたびたび実感します。まず、3月下旬マーチブレイク中に超巨大雪嵐が町を襲いました。それまで雪が解け始めていて、ようやく春の訪れか、などと思っていましたが甘すぎました。真冬に逆戻りです。この地域でも60年に一度といわれるほどの大雪で、町がほとんど機能停止状態となり、最初の数日は家に閉じ込められました。「家に閉じ込められる」というのは比喻ではなく、まずドアの地面から3分の1は雪で覆われており文字通り外に出られません。さらに恐ろしいことに空調口が雪で覆われることで空気を循環させることができず、家の中の二酸化炭素濃度が高くなる可能性を示唆するアラートさえ鳴ったほどです。たとえ、これらの難関を突破したとしてもすぐ次に待ち構えるのは膝上まで積もった雪です。車道でさえ脛あたりまで雪が積もっており、車を走らせることもままなりません。車道を復活させるために市の専用車両が大量の雪を道路の脇に寄せるのですが雪の量が多すぎてしばらくは道路の幅が異様に狭く歩道もありませんでした。そのせいでマーチブレイク後なんと丸々一週間学校がなく、元は一週間であったのが実質二週間の春休みとなりました。中々体験することができないであろう、天候に大きく行動を制限され、人間がいかにかっぽけなものか痛感した貴重な経験でした。



とんでもない量の雪が伝わる写真を、と思ったのですがどれもただ白いだけでよくわからないものばかりでした。

今この留学だよりを書いているのは4月26日です。ここ1週間で大分雪が解け、さらに昨日今日は久しぶりに快晴、とても気持ちの良い天気です。ようやく本当の春がやってきてくれたようです。うれしい限りです。たくさんの方がこのお日様を逃すまいとお散歩しています。日の国日本にいと中々気を留めることがなかった、日の光のありがたさを体感する今日この頃です。今更ながらですが、二学期の学校生活の様子をお届けします。



1 限目生物。一つ上の学年のもので、大好きな授業です。今までに進化論や遺伝について詳しく見てきました。先生の、興味深い具体例を含んだ説明がとても面白く、聞いていて全く飽きません。実際の世界とのつながりを感じられる所がこの授業の魅力です。またちょこちょこ行われる実験で実際に手を動かして学んだことを検証するのも楽しいです。今は、消化器系の臓器について軽く復習した後、マクロ分子を学び始めたところです。自分の興味のある栄養についての知識も絡んでくると思うので楽しみです。

2 限目英語。一番難しい授業です。テストや課題などの解答や作文について、他の教科では内容を重要視してくれるところ、当然ながらここでは内容はもちろん、自分の英語自体と向き合わなくてははいけません。私のエッセイはやはりまだまだ指摘されて気づく不自然な言い回しが多く、また授業で扱う本を読むときは語彙に苦戦します。わからない単語を全て拾っていたら永遠に読み終わらないのである程度割り切って推測し全体の流れをつかむ力はつきました（笑）。今までは、文学のデバイスやキャラクターに注目しながら、1920年代、第一次世界大戦後の北米の大きな成長期、消費文化や資本主義が本格化したころの道徳的空虚感をテーマとした *The Great Gatsby* (F. Scott Fitzgerald) を読み最終課題のエッセイを書き終えたところです。今は新たな単元、ディストピア小説についての講義が始まったところです。複数の小説から自分が読みたいものを選ぶ形式だったのですが、私は *The Chrysalids* (John Wyndham) という、人間とそっくりだが足の指の本数などに違いのある異種生物への徹底した迫害が描かれている小説を選び、読み始めました。選択肢の中には、George Orwell の *Animal Farm* や 1984 など日本でも有名なものも含まれていました。先生がとても思慮深くエッセイでは高いレベルの提言、またそれを裏付ける証拠が求められるため毎回課題には相当時間を費やしますが、その分やり終えた時の達成感は大きいです。

3 限目アウトドア。一番ユニークな授業です。名前の通りアウトドアアクティビティに関する知識を身につけ実践する、自然が豊かなカナダならではの教科です。アウトドア、私が思っていたよりもずっと奥が深く、文明化しつつも現代社会を離れて生き延びるには確かな知識と機転の利く発想力、そして十分な体力が求められます。とは言っても自然を

楽しむことが大きな目標である以上、小難しい座学ではなく実際に外で活動することが多いです。今までに、quinzee という鎌倉のようなものを作ったり（完成後はみんな中でホットチョコレートを作って飲みました）、マッチと野生の道具のみで火を起こしたり（これが想像以上に難しいのです、3回挑戦し最後によりやく成功しました、そしてこちらはもちろん焼きマシュマロ付き）、習ったロープの結び方を駆使してタープシェルターを張ったりしました。5月末には3泊4日のカヌートリップに行く予定でとても楽しみです。チームワークが要求されるアウトドア、経験の浅い私はまだまだユーズレスですが、何か少しでもチームに良い影響を与えられるようになりたいものです。



左はノットの写真です。名前が一向に覚えられません。右二つはお気に入りの火おこしの写真です。

4 限目物理。こちら一つ上の学年の授業ですが今学期の授業の中で一番簡単かもしれませんが、日本でやったことがある内容とやったことがない内容どちらも含まれていますが、結局公式を正しく使えば答えを求め得られるので、問題文を正しく理解することさえできればあとはスムーズです。たくさんの宿題が出て、その問題を解いていくことで定着させるスタイルが日本の勉強と一番似ていると感じます。

留学生活も残り2か月となりました。行動範囲が広がってきたからこそ、夏もカナダにいられたらできたのに、と中途半端さに悔しくなることがあります。毎日を丁寧に、今に集中して暮らしていくことが結局自分自身を満足させる最短の道なのかなと思ったりします。来月の目標は、様々なイベントで授業を欠席することが多くなる予定なのでしっかり学校外の勉強時間を確保しキャッチアップしていくことと怪我に気をつけて運動することです。最後まで読んでいただきありがとうございました。



17期 森田

Harry は見た。